

自分スタイルの確立！ 通信制

可能性への挑戦！ 全日制

2025.07.18

闇バイトの恐怖 —SNSに潜む“あなた自身”への危険

身边に起きる刑事事件から学んだSNSの恐怖、そしてスマホ依存への対応

7月15日、本校で開催された生徒指導講話「SNSによる犯罪例 闇バイト」にて、県警サイバー犯罪対策課の担当者から実際に発生したSNSに関連した未成年の関与事例が紹介されました。

首都圏では、高校生が簡単に応募できる「闇バイト」の罠にかかり逮捕されるニュースが相次いでおり、その身近さが改めて浮き彫りになりました。

講話を聴講した阿曾君は、「これまで『自分には関係ない』と思っていたけれど、ニュースで聞くよりもずっとリアルに感じた。自分も巻き込まれるかもしれないと強く思った」と感想を語りました。

また、日常的にスマートフォンを手放せない自分自身の「スマホ依存」に気づき、講師が示した依存度チェック（14点以上）を自身も超えていると自覚したこと、「夏休みはSNSから距離を置いて生活してみたい」と決意を新たにしています。

さらに阿曾君は進路についても言及し、「SNSばかりに時間を使っている場合ではない。3年生として目の前に迫った進路選択に向けて勉強や部活動に力を入れたい」と前向きな表情を見せました。

今回の講演は、生徒一人ひとりに「被害者にも加害者にもならないための日々の心がけ」を促すものとなりました。夏休みを前に、阿曾君をはじめ全校生徒がスマホ依存を見直し、健やかな生活リズムの中で未来を切り拓く一歩を踏み出すことが期待されます。

後援会の感想を語ってくれた
阿曾君



代表生徒によるお礼の挨拶

いきなりですか、かばさんにお聞きです。

高校生のスマートフォン所持率は何%でしょう？



授業が変われば、生徒は伸びる！

～教員と生徒の挑戦が生んだ、学びの新しい風～

本校では去る6月、2週間にわたり「チャレンジ!THE 授業 Week×2」と題した授業改善プロジェクトを実施しました。「授業で変わる、君と私。」をスローガンに、「授業の質向上」を目標に、教員と生徒が一体となって様々な「挑戦」を試みる新たな取組となりました。

教員の創意工夫が、生徒の「主体性」を引き出す

期間中、教員は日頃の授業に新たな風を吹き込もうと、様々な挑戦を繰り広げました。生徒が先生役となって解説する「反転授業」や、ICT機器を活用してリアルタイムに意見を共有する授業、外部の専門家を招いた特別授業など、その内容は多岐にわたります。これらの取り組みに共通するのは、「生徒を学習の主役にする」という視点です。教員が一方的に知識を伝えるのではなく、生徒自身が考え、発表し、互いに評価し合う。そんな主体的な学びの場を創り出すことで、生徒たちの知的好奇心と学習意欲を引き出しました。



データを通して見えた生徒たちの成長

教員の挑戦に応え、生徒たちも真剣に授業に臨みました。そして、一人ひとりの小さな挑戦の積み重ねが、大きな変化を生み出しました。その成果は、「授業態度」「授業の受け方」「定期考查対策」「家庭学習」の4項目全てにおいて、生徒の自己評価の平均値が2週間を通して右肩上がりに上昇。データは、生徒たちの学習に対する意識と行動が、期間中に着実に向上したことを客観的に示しています。まさに、学校全体で授業に向き合う雰囲気が、一人ひとりの成長を後押しした結果と言えるのかもしれません。

生徒が語った「わかるって、面白い！」

商業科の反転授業で「損益計算書」の解説を担当した嶋田君（3年）は、当初は「人前での説明は緊張した」とのことですが、仲間と教え合う中で理解を深め、「わかるようになってきて、簿記の授業がおもしろくなってきた」と笑顔で語ってくれました。これは、受け身の学習から「わかる喜び」を知る学習への転換が、大きな自信と自己肯定感を生んだひとつの事例と言えます。



今回の「チャレンジ!THE 授業 Week×2」は、初めての取組ということもあり、試行錯誤的な部分もありましたが、今回の総括をもとに、2学期以降も継続的に授業改善に取り組むことで、生徒一人ひとりの可能性を最大限に伸ばす教育を追求してまいります。

※ 左は外部講師（東京情報大の先生）による授業の様子